

平成の野々市史

2019年5月1日、約30年間にわたる平成が幕を下ろし新たな時代を迎えます。「平成」の間には、町から市に移行するなど、市の歴史に欠くことのできない大きな出来事が数多くありました。

振り返ると、懐かしい出来事や「え！こんなに前だったの！」と感じる出来事もあるかも。さあ、時間を少し巻き戻して市の平成の出来事を写真とともに振り返ってみましょう。



平成2年
(1990年)
旧町役場（本町）周辺で行われていた「野々市じょんからまつり」を文化会館フォルテと野々市小学校周辺に会場を移して初開催。



平成4年
(1992年)
まだまだ交通量にゆとりがある国道157号線。



平成9年 JR野々市駅の駅舎
(1997年)
平成9年に、北口プラザ、平成10年には交遊舎を開設。そして平成24年に現在の姿に。



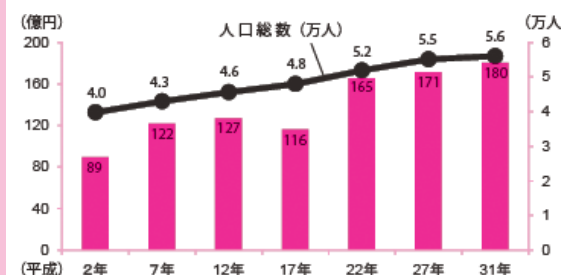
データで振り返る 野々市のあゆみ

県内有数の人口増を背景に 発展し続けた30年

近隣自治体へのアクセスの良さや、商業施設・医療機関の多さといった利便性の高さを反映し、人口は右肩上がりに増加。一般会計当初予算額は、土地区画整理事業や学校の新校舎建設や耐震化、中央地区整備事業などまちの整備のほか、子育て支援の拡大など福祉の充実を要因として拡大してきました。

住民数の推移

人口数	
平成2年国勢調査 39,769人	→ 平成31年推計数 56,032人 約1.4倍に増加
世帯数	
平成2年国勢調査 14,835世帯	→ 平成31年推計数 25,645世帯



平成2年「全国椿サミット」の前身となった第1回つばきフォーラムを開催し、全国から11自治体に参加。



平成5年 今でも多くの人々が散歩やランニングを楽しんでいるウォーキングコース「健康のみち」を設置。



平成7年 旧町役場（本町）の市民課窓口の様子。
(1995年)

History of Nonoichi -Heisei Edition-

第4位 コミュニティバス「のっティ」の運行がスタート

運賃は気軽に乗れる100円、「北部」、「西部」、「中央」、「南部」の4ルートで市内全体を運行しているコミュニティバス「のっティ」。通学や通勤はもちろん、市民の足として親しまれています。そんな「のっティ」が運行を開始したのは、平成15年のこと。当時使用されていた、前方が少し低い車体を懐かしく感じる人も多いのではないのでしょうか。車体に描かれたその愛くるしい姿が評判となり平成22年には、「のっティ」は市の公式キャラクターに就任。

今では、ファンミーティングを開催するほどの人気で、多くの市民に愛されています。



懐かしい低タイプの車両

第6位 ツバキで広がる交流の輪 第27回全国椿サミット野々市大会の開催



平成29年3月18日、19日の2日に渡って開催した本大会には、ツバキ愛好者や、ツバキに関わりが深い自治体の関係者、約300人が全国から参加。市内に咲くツバキの鑑賞などを通してお互いに交流を深めました。

中央公園にあるツバキの鑑賞・育成施設「愛と花のギャラリーののいち椿館」はこのサミットに合わせてオープン。たくさんの種類のツバキを楽しむことができる場所として親しまれています。

第9位 第46回国民体育大会（石川国体）ソフトボール競技の開催



平成3年10月13日～16日の4日間にわたり、町民野球場（現在の市民野球場）で、行われた本大会。

全国から10チームが参加し熱戦を繰り広げました。全町内会で炬火リレーコースや沿道の清掃を行うなど、町民が一丸となって選手を迎えました。

石川国体のキャラクター「元気くん」



第5位 北陸初のコミュニティFM局「えふえむ・エヌ・ワン」開局

平成7年、金沢工業大学を中心に市の有志によって北陸では初めて、全国では24番目のコミュニティFM局として開局しました。周波数は、76.3メガヘルツ、野々市市全域と周辺地域を放送エリアとしています。市民や金沢工業大学生などが出演する自主番組を多く制作し開局以来、地域に根づいた番組を放送し続けています。災害時には、市と連携し緊急情報を発信する役割も。今後も、地域の大切な情報伝達メディアとしての活躍が期待されます。



第7位 まちが雪に覆われた 30豪雪

平成30年1月中旬から2月上旬にかけて、記録的な大雪が北陸地方を襲いました。市内では、50センチを超える積雪を記録し、小中学校の臨時休校、コミュニティバス「のっティ」の運休、ゴミ収集の遅れなど、生活に大きな影響をもたらしました。



堀内4丁目地内の様子（2月9日撮影）

第8位 にぎわいの里ののいち カミーノが開館

生涯学習施設である「中央公民館・野々市公民館」、市民協働のまちづくりの拠点となる「市民活動センター」、物産品の販売など市の観光拠点となる民間商業施設「1の1 nonoichi」の3つが集まる複合施設として平成31年4月1日に開館しました。「カミーノ」とは、スペイン語で「道」という意味。今後、市の新しい道を切り開く取り組みがここで生まれることでしょう。

第10位 国史跡末松廃寺跡から「女子像が線刻された土製品が出土」

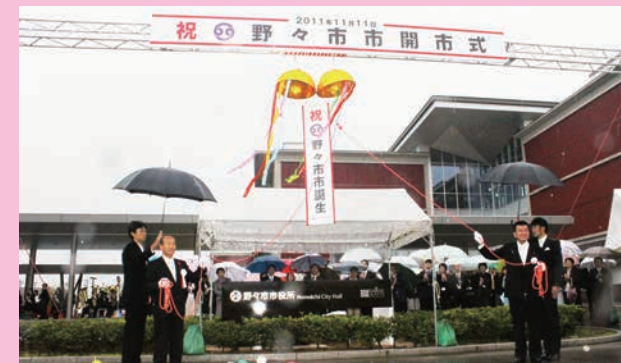
平成30年8月上旬、国指定史跡末松廃寺跡で、女子像が描かれた瓦塔の一部（土製品）が出土しました。鑑定の結果、国内初の貴重な発見であることがわかりました。この時代の信仰の広がりを知る上で重要な資料であり、地域の財産がまた一つ増えました。



広報が選ぶ！

平成の野々市 重大ニュースTOP10

第1位 単独市制を実現し、野々市市誕生！



堂々の1位は、平成23年11月1日の「野々市市」の誕生です。平成14年頃には、他市町との合併の議論が起るなか、着実に人口数など市制移行への条件を満たし、県内で11番目の市として市制を実現しました。市内各地では市制施行記念イベントが催され、小中学校7校では児童生徒と市民が、午前11時に合わせ色とりどりのバルーンを大空へ放ちました。将来の夢や市の誕生を喜ぶ言葉が書かれた約5千個のバルーンと子どもたちの歓声が新たな市の幕開けを彩りました。



新しい市の名前の候補には「野々市市」の他、「ののいち市」や「椿市」などが市民対象の意識調査に上がりました。どのような名前がふさわしいのか、新市名称検討委員会での議論や、住民説明会などで出た意見を踏まえながら慎重に検討が重ねられました。その中でも、1312年に書かれた古文書にも登場している「野市（ののいち）」という名は、この地の長い歴史を証明する貴重な財産であること、そしてこの由緒ある地名を後世に残していくべき使命がある、という点などから現在の市名が採用されることとなりました。

第2位 待望の市立図書館！

学びの杜ののいち カレード開館

本町2丁目地内で開館していた前図書館は、老朽化と蔵書数不足の問題から、新しい図書館への建て替えが長年待ち望まれていました。平成18年に開催した第1回目の新図書館検討会議を皮切りに多くの検討を重ね、ついに平成29年11月1日、太平寺4丁目の旧県立養護学校跡地に、市立図書館と市民学習センターの複合施設「学びの杜ののいち カレード」が開館しました。開館から約1年半の現在、来館者数はなんと72万人を突破。市の顔と呼ばれる存在となっています。



オープニングの日、空にバルーンが舞いました。

第3位 新たな時代の始まり！

町役場（当時）が移転



後方に見えるのが建設中の庁舎

手狭になっていた本町2丁目地内にあった旧町役場。人口増加など市の発展を背景に平成17年1月に、現在の場所（三納）へ庁舎を新築、移転しました。移転前は、一帯が田んぼでしたが、現在は多くの商店が立ち並び市を代表するエリアとなりました。



Before



After

市役所前から新庄方面への道。道幅も広くなりました！

突撃アンケート まちの人に聞いてみました！

Q. 「平成」の思い出を教えてください

地域デビューをして地域の活動に参加するようになったこと！仕事をしていた時には出会えなかった地域の人とつながりを持てました。
(70代男性・市在住歴74年)

合唱という没頭できる趣味ができたことです。
(70代男性・市在住歴25年)

平成から令和に時代はバトンタッチ！新しい時代がスタートします。これまで過ごした平成への思い出、そしてこれからの未来に向かっての思いなどまちのみなさんの声を聞きました。



平成21年に、結婚！
(女性・市在住歴10年)

Q. 元号が変わるこの機会。

新しく始めたいことや
挑戦したいことはありますか

仕事に活かすために英会話の勉強を始めたい
(30代女性・市在住歴30年)

嫌な思い出は全部平成において行く。
過去は振り返らずに、生きたい！
(50代女性・市在住歴36年)

今まで通り子ども
たちと仲良く！
(女性・市在住歴7年)



昔やっていた卓球を
もう一度始めたい！
(男性・市在住歴9年)



Q. 「令和」の野々市市。

「こうなったらいいな」を
教えてください。

若者が積極的に盛り上げる市にしたい
(20代女性・市在住歴21年)

総合病院ができたらいいな
(70代女性・市在住歴51年)

室内で遊べる場所が
もっとほしい！
(女性・市在住歴5年)



新時代の始まりにあわせて表紙のデザインを一新しました。

広報紙の役割って何だろう。

市の情報や取り組みを伝えることはあたりまえのこと。

その先に、紙面が伝えた市の話題や課題をきっかけに会話が生まれ、野々市を想う人が増えていく。

そんなステキな広がりへのきっかけとなる存在でありたいと思います。「そういえば、広報野々市読んだ？」から広がる、大きな輪ができることを目指して。



New!

野々市 31 年史

内容は市主要年表より抜粋 / 全て当時の名称

「そうそう、こんなことがあったっけ！」
「へー！、こんなことがあったんだー」

- 平成**
- 平成元年 3月 保健センター落成
 - 平成2年 3月 第1回全国つばきフォーラム開催
 - 平成3年 8月 スポーツランドのプール完成
 - 平成4年 10月 第46回国民体育大会ソフトボール競技開催
 - 平成5年 8月 布水中学校が全国中学選抜体育大会バスケットボール男子競技で優勝 **1**
 - 平成7年 10月 第7回国民文化祭・石川'92「ブランドメモリアルコンサート」開催、皇太子徳仁親王殿下が来町 **2**
 - 平成11年 8月 全国高等学校総合体育大会男子ソフトボール競技で県立野々市明倫高等学校が初優勝 **3**
 - 平成15年 12月 コミュニティFM局「えふえむ・エヌ・ワン」開局
 - 平成11年 5月 押野保育園・児童館竣工
 - 平成15年 12月 野々市南交番落成（藤平地内）
 - 平成15年 4月 市内中学校で完全給食が開始



新行南線の記念テープカット **4**



優勝チームの集合写真 **3**



文化会館フォルテにて **2**



優勝バレーの様子 **1**

- 平成16年 11月 金沢工業大学と町の連携推進に関する協定書の締結
- 平成17年 1月 野々市町役場が新庁舎へ移転
- 平成18年 4月 石川県立大学開校
- 平成20年 9月 北陸新幹線建設工事着工（郷町）
- 平成21年 3月 町花木ツバキを活用した初の産学連携商品日本酒「C.N.椿」が誕生
- 平成22年 2月 「のっティ」が町公式キャラクターに決定
- 平成23年 10月 北国街道野々市の市初開催 **5**
- 平成24年 11月 平成22年国勢調査で人口の確定値が5万人を突破
- 平成24年 3月 野々市市誕生
- 平成24年 3月 シャトルバス「のんきー」実験運行開始
- 平成24年 12月 石川県立大学と市の包括連携
- 平成20年 9月 北陸新幹線建設工事着工（郷町）
- 平成21年 3月 町花木ツバキを活用した初の産学連携商品日本酒「C.N.椿」が誕生
- 平成22年 2月 「のっティ」が町公式キャラクターに決定
- 平成23年 10月 北国街道野々市の市初開催 **5**
- 平成24年 11月 平成22年国勢調査で人口の確定値が5万人を突破
- 平成24年 3月 野々市市誕生
- 平成24年 3月 シャトルバス「のんきー」実験運行開始
- 平成24年 12月 石川県立大学と市の包括連携



野々市に観光客が来町 **8**



「めいゆ市」を運営になりました **7**



町内会での様子 **6**



北国街道を歩行者天国に **5**

令和

- 平成26年 8月 布水中学校男子バスケットボール部が全国中学校体育大会第44回全国中学校バスケットボール競技で22年ぶりに優勝
- 平成27年 12月 市観光物産協会設立
- 平成27年 4月 まちづくり基本条例の施行
- 平成28年 1月 市出身米林宏昌監督作品「思い出のマーニー」が第88回米アカデミー賞にノミネート **8**
- 平成29年 3月 第27回全国椿サミット野々市大会の開催
- 平成30年 11月 愛と和 花のギャラリーのいち椿館が開館
- 平成30年 8月 学びの杜のいち カレードが開館
- 平成31年 4月 国史跡末松廃寺跡から「女子像」が線刻された土製器が出土
- 平成31年 4月 にぎわいの里のいち カミノーが開館
- 平成26年 8月 布水中学校男子バスケットボール部が全国中学校体育大会第44回全国中学校バスケットボール競技で22年ぶりに優勝
- 平成27年 12月 市観光物産協会設立
- 平成27年 4月 まちづくり基本条例の施行
- 平成28年 1月 市出身米林宏昌監督作品「思い出のマーニー」が第88回米アカデミー賞にノミネート **8**
- 平成29年 3月 第27回全国椿サミット野々市大会の開催
- 平成30年 11月 愛と和 花のギャラリーのいち椿館が開館
- 平成30年 8月 学びの杜のいち カレードが開館
- 平成31年 4月 国史跡末松廃寺跡から「女子像」が線刻された土製器が出土
- 平成31年 4月 にぎわいの里のいち カミノーが開館